政治不信 揺れる韓国与野党

4カ月後に迫った韓国大統領選で、進歩（革新）と保守の2大政党の公認候補が出そろった。今後選挙戦が本格化するが、両候補ともにスキャンダルの渦中にあり、有権者の間には政治不信も広がる。

▼1面参照

スキャンダル渦中の両者　支持は二分

政権奪還を目指す保守系最大野党「国民の力」は、検察トップとして文在寅（ムンジェイン）政権と対立した尹錫悦（ユンソクヨル）前検事総長(60)を公認候補に選んだ。尹氏は5日の党予備選を制した後の演説で、進歩系の与党「共に民主党」の公認候補、李在明（イジェミョン）・前京畿道知事(56)を「ポピュリスト」と批判。「今回の大統領選は、常識の尹錫悦と非常識の李在明との戦いだ」と気勢を上げた。

検察畑を歩んできた尹氏に政治経験はない。政界進出のきっかけは皮肉にも、文大統領による検事総長への登用だった。保守系の朴槿恵（パククネ）前大統領をめぐる贈収賄事件を捜査指揮した経験が買われた。

「権力から独立した検察」が持論の尹氏は、文政権にも手加減しなかった。文氏側近への捜査を精力的に指揮。文政権と戦う姿が保守層に受け入れられ、大統領選の有力候補になった。

検事総長を辞し、6月に大統領選に出馬表明。翌月には国民の力に入党した。

世論調査では李氏と人気を二分。保守系支持者が多い高齢層に浸透し、20～30％台の支持率を保ってきた。ただ、保革のイデオロギー色が薄い20～30代からの不人気ぶりが目立つ。有権者の反感を買う失言が影響したとみられる。

李氏は1980年代の民主化運動に参加した50代や、保守政権下の97年に起きた「IMF（国際通貨基金）危機」の影響で就職難を経験した40代を中心に進歩支持層の期待を集める。

貧しい家庭で育ち、小学校卒業後に工場で働きながら検定試験で高卒資格を取得。奨学金を得て大学を卒業し、弁護士になった苦労人とアピールする。城南市長や京畿道知事としての実績を評価する声も高い。

2日には有権者の関心の高い首都圏のマンション高騰に言及。「国民に苦痛と挫折感を与えた」と謝罪し、与党候補ながら文政権の失策と認定した。中道層の取り込みを狙うしたたかさがある。

2人とも疑惑を抱え、捜査機関が動く。尹氏は検事総長時代に、与党政治家の立件を狙って野党議員に告発を促すよう検事に命じた疑惑、李氏は城南市長時代の不動産開発事業をめぐる不正疑惑がくすぶる。有権者からは「ここまでひどい大統領選は過去に例がない」との声もきかれる。

文政権下では元慰安婦や元徴用工の裁判などをめぐり、対日関係が悪化の一途をたどった。関係改善は次の政権の課題となる。

「慰安婦や徴用工の問題は加害者の日本がつくった。和解のための謝罪は被害者がもういいと許すまで心から続けるものだ」。李氏は自身のSNSで10月に記した。李氏には日本への強硬姿勢が目立つ。

ただ、李氏に近い外交専門家は「内政も外交も李氏のキーワードは『実用』。関係改善がプラスになると判断すれば現実的に動くだろう」と語る。

尹氏は日韓関係の発展を促した1998年の「日韓共同宣言」を次の段階に進めるとの公約を掲げる。歴史問題だけを協議すれば譲歩は難しく対立は解けないとみて、経済や安保の問題も絡め、包括的に解決を図る道筋を描く。

（ソウル＝鈴木拓也、神谷毅）

	李在明・前京畿道知事	尹錫悦・前検事総長
出生	1964年 慶尚北道・安東出身	1960年 ソウル出身
家族	妻と息子2人	妻
経歴	弁護士、城南市長、京畿道知事を歴任	検察畑を歩む。政治経験はなし
公約	全国民に年100万ウォンを支給	日米との安保協力強化
定評	人たらし、実行力が売り。文在寅大統領とは距離。日本に厳しい発言目立つ	大物政治家を次々に立件も、相次ぐ失言。文在寅大統領と対立

写真は東亜日報提供

掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。
Copyright The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.